諫早市立小栗小学校　『学校だより』№20

令和７年１月８日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

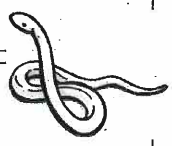
新年あけましておめでとうございます

令和７年が始まりました。今年は「巳年」です。「巳」は、蛇のことを指しますが、漢字としては、草木が成長した状態を表しているそうです。そして「巳年」は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とされているそうです。

また、蛇は海外で財を司る神様とされていることから金運グッズのモチーフで見かけます。身近なところでは救急車には杖に巻き付いた蛇が描かれています。これは医療の神様に仕えていた蛇で、再生の象徴として考えられていたからだそうです。

一方で、神話の中で人の始祖に知恵の実を食べるように唆したり、蛇蝎と表現されるように毒を有する代表のように扱われたりもしています。

良きにつけ悪しきにつけ、人と身近なつながりをもつ生き物が蛇なのだなあと思います。令和７年がどのような年になるかは知るよしもありませんが、巳年が示す「新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年だった」と振り替えられる１年にできたらと思います。



準備期間

１年の始まりの１月ですが、年度でいえば終わりに近づいていく月でもあります。個人的には、１月はどちらかというと終わりに近づく月という感覚が学校での勤務を重ねるごとに強くなってきました。

３学期は今日（１月８日）を含め、授業日数は５１日（６年生は４７日）です。この短い期間の中で今の学年の振り返りとまとめ、次の学年や学校に向けた心構えを準備していきます。

義務教育期間は、年度が替われば次の学年に進みます。しかし、どのような準備をしておくかで来るべき年度初めのスタートの切り方が変わります。

あるメジャーリーガーが昨季球史に残る活躍をされた選手を評して次のようなことを言われていました。

「彼のプレーを見て誰もがすごいと言うのは、間違いなくそうです。でも、彼の本当のすごさは、そのプレーができるように準備しているところなんです。そこに気づく人は少ないですね。」

感染症

冬休み期間中、お子様をはじめご家族の皆様は、体調等崩されなかったでしょうか。１年の中も寒さの厳しい時期となってまいります。特にお子様の体調管理には十分な配慮をよろしくお願いいたします。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№19

令和６年 12 月 24 日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

２学期の終わりと３学期に向けて

長いように感じた２学期も終業式を迎えました。子どもたち一人一人の２学期の振り返りは様々かと思います。しかし、多くの活動をする機会があり、その中で経験値を積み重ね、２学期の始まりより少し成長した自分を実感できていればと思っています。

さて、年末年始を過ごすと、今の学年も残りわずかとなります。どのように今の学年を終え、次の学年や学校に向けて、どのような気持ちをつくっていくか冬休みの期間中に少し考えておくと、学年末から次年度に向けてのモチベーション向上につながるものと思います。

また、各種感染症が流行しやすい時期でもあります。予防や早めの治療で、３学期の始業式に子どもたちが元気に登校してくれることを望んでいます。

年越し

私が小学生の頃であった約 50 年前の年末年始は、１年の中でも唯一夜更かしができる大晦日、手書きの年賀状をクラスの友達に書いたり家族でもちつきしたりした年末、両親の実家に行ってお年玉をもらう元日、お店は三が日は休み（コンビニはまだありません）、学校の運動場に行って凧揚げやコマ回しで遊ぶ、テレビは普段はやっていない２時間の特別番組など非日常のオンパレードでした。

今は年中無休で開いている店舗、２時間どころか３時間の特別番組が珍しくないテレビ番組、ネットでは多くの見放題コンテンツが提供され、年始の挨拶はメールでなどかつての非日常は日常となってきています。

しかし、生活スタイルは変わっても、この時期に親族が集まったり、家族で年越しをしたりと、子どもたちにとっての変わらない非日常も残っているものだと思います。

年末年始の過ごし方は個人や家庭で様々だと思います。それでも子どもたちが我が国の文化や習わしを知る良い機会となればとも思います。

干支の話

午前、午後、正午といえば、時間帯を表す言葉ですが、共通している文字があります。それは「午」（牛ではありません）です。これは「うま」と読みます。そして昔、昼の 12 時を午の刻と言っていました。ですから「午の刻の前で午前」「午の刻の後で午後」「正に午の刻で正午」なのだそうです。

ちなみに諫早市には十二支公園というものがあります。「午」の公園は小川町にあるそうです。また、来年の干支である「巳」の公園は小野地区の宗方町にあるそうです。干支にまつわる色々な話を調べてみると、新しい発見がありそうです。

みなさま、よいお年をお迎えください

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№18

令和６年 12 月 17 日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

今年の漢字

先週１２月１２日に今年の漢字が発表されました。令和６年は『金』でした。選考理由は、金（きん）メダルや佐渡金山の世界遺産登録、金（かね）にまつまわる話題が多かったということでした。

ただ、オリンピックの年（2021・2016・2012）は『金』が続いているなあとも感じました。みなさんの今年を表す漢字一文字は何でしょうか。私は『描』かなと思います。小栗小に赴任し、学校像、子ども像を描き、拙いながらイラストを描いて校長室前に掲示させていただいた年でした。

令和６年を振り返ると

あと２週間ほどで令和６年の幕が下ります。個人的な振り返りは人それぞれかと思いますが、少し全国的な視点での振り返りをしてみたいと思います。

災害・気候のニュースを聞くことが多くありました

○　元日の能登半島を襲った地震をはじめ、夏休み中の宮崎県の地震など地震の緊急速報が例年以上に多く感じられました。

○　局地的な大雨による被害が各地で起こりました。特に震災に見舞われた地域が大雨にも、というケースがありました。

○　猛暑が続き、１１月に入っても日中は２０度を超える気温、台風の発生などこれまでの気象の常識が通じなくなっている感がありました。

スポーツの世界で活躍する選手のニュースも多かったと思います

○　オリンピック・パラリンピック、メジャーリーグ、ＮＢＡなど海外を舞台に活躍する選手が増えてきました。

○　諫早市出身のプロ野球選手が誕生しました。今後の活躍に注目です。

新しい犯罪の手口が連日ニュースになっていました

○　若い世代を中心に、安易に犯罪に手を染めるニュースが増えました。

毎年、明るいニュース・暗いニュースがあるのは世の習いですが、ニュースを切り口に今年を振り返って見るのもいいかなと思います。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№17

令和６年 12 月３日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

むごい教育

徳川家康の逸話です。幼少期（幼名・竹千代）に今川家の人質となっていた家康に、今川家当主の今川義元は家臣に「『むごい教育』をせよ」と指示しました。その指示を受けた家臣は家康に質素な食事を与え、武術の訓練を厳しく行いました。

そのことを聞いた義元は、「それは『むごい教育』ではない」と家臣を叱ったそうです。そして、「むごい教育」とは、ぜいたくな食事をさせ、竹千代の言うことはすべて聞き入れ、欲しいものはすべて与え、ちやほや育てることであると、家臣に教えたそうです。

つまり、義元の狙いは、武将として見込みのある竹千代（家康）が大成すると、将来今川家の脅威となることを恐れ、幼少期からその芽を摘み取ることにあったと言われています。

あくまで、逸話ですので、その真偽はわかりませんが、子どもたちが困難に出会った時、自力で乗り越える経験もせず、他と協力して困難を解決する手立ても学ばず、わがまま三昧、自己主張ばかり覚えて成長したとしたら、それは子どものためなのかと考えさせられる話です。

ちなみに、竹千代は「むごい教育」の影響を受けることなく、様々な困難を乗り越え、徳川家康として江戸幕府２６０年の礎を築いたことは歴史に刻まれている通りです。

歳の瀬

１２月に入りました。今日も含め２学期の登校日数は１６日となりました。これから年末を迎え、何かと気ぜわしくなり、思わぬ事故が起きやすくなるかと思います。

昨年（令和５年）の長崎県の交通事故統計では、１月が２３７件、１２月が２４７件でした。この１月と１２月の件数は年間の交通事故件数の約１８％にあたります。やはり年末年始には交通事故が多くなっていることが読み取れます。

子どもたちには日頃から交通安全指導を行っているところではありますが、年末の慌ただしさからかスピードや周囲への注意が疎かになっているドライバーもいるかもしれません。また、本校の校区は比較的交通量が多い、住宅地への車の出入りが多い等の環境でもあります。日頃に加え、より交通安全への意識を高くしておく時期なのだと思います。

一方で、ハンドルを握る機会の多い私たち大人も日暮れが早くなり、子どもに限らず歩行者を視認しづらい季節でもあります。より慎重な運転を心がけ、年末年始を迎えていきましょう。

年末の交通安全県民運動は１２月１５日（日）～１２月２４日（火）です。

また、１２月１７日（火）の登校時には長崎刑務所の所員さんによる見守り活動も行われます。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№16

令和６年11月19日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

目線の高さ

先月２４日、今年のプロ野球ドラフト会議が行われました。毎年、将来を有望視された若者が満面の笑みで映し出されます。しかし、この中で引退まで第一線で活躍するのは一握りです。それだけ厳しいのがプロの世界だということでしょう。

さて、メジャーリーグの１シーズン最多安打記録２６２本は日本人選手によって樹立されています。この選手はドラフト４位で日本の某球団に入団し、２軍からスタートしています。また、往年の名選手もドラフト６位であったり、テスト生同然で入団したりし、頭角を現して、中心選手になった方もいます。現役メジャーリーガーでは日本の球団に育成選手としての入団がスタートの投手もいます。

おそらく、このような選手に共通するのは「プロ野球選手になること」がゴールという気持ちで入団されてはいなかったのかなと思います。プロ野球選手としてどのような選手になりたいのか、自分がチームの中で生かせる強みは何なのか、出場のチャンスを得るためにはどうしたらいいかなどを試行錯誤しながら練習をされたのではないかと思います。

成り行きに任せてばかりで成果や結果を望んでも思うに任せないと思います。自分の目線を高くして目標を見据えたうえで、今自分に必要なことは何なのかを考えることはプロ野球に限らず必要だと感じています。

匠の話

こんな話があります。

Ａさんが家を建てようと、大工さんの下を訪れました。家のことについて様々な話をする中で、２階に上る階段をどこに設置するかという話になりました。Ａさんが希望した階段の場所には家を支える梁があり、大工さんは「そこに階段はつけられない」「耐久性に問題がありますよ」と説明しました。

しかし、Ａさんは頑として譲らず、「自分の家を建てるのだから、自分の好きにしていいじゃないか」「大工は依頼主の言う通りの家を建てればいいんだよ」と、自分の意見を通しました。大工さんは「わかりました。でも、説明はしましたよ」と、Ａさんの希望の場所に階段を設置しました。やがて、Ａさんの要望した通りの家が完成し、Ａさんは大満足でした。

しばらくして、Ａさんの住んでいる地域に台風が上陸しました。Ａさんの家は台風に耐えることができず、倒壊してしまいました。

世の中には様々な専門的な知識や技能をもった方がおられます。そのような方は専門的な見地から様々なアドバイスをくださることがあります。時には自分が思っていたことと真逆の指摘をいただくこともあり、「目から鱗」のこともしばしばです。迷ったり、悩んだりしたときは複数の専門家に助言をいただくように心がけています。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№15

令和６年11月５日
文責　校長　橋口　亨

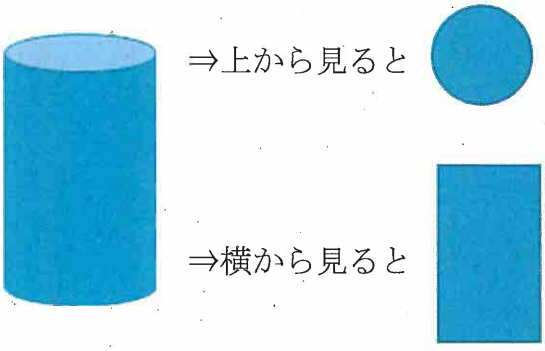
目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

アリの目・鳥の目・魚の目

タイトルは物事の見方を表す時によく使われるフレーズです。「アリの目」とは物事を近くに寄ってつぶさに詳しく見ることです。「鳥の目」とは視点を高くし、物事の見える範囲を広くすることです。そして「魚の目」とは自分の周囲へ視点を張り巡らすことです。

さて、「アリの目」では詳しく物事を見ることができますが、全体像はわかりにくくなります。「鳥の目」は広く、全体を見渡すことができますが、物事の詳細は見えにくい状態です。「魚の目」は周りの様子はわかりますが視界は決してよくはありません。

つまり、物事を見る視点を一通りしかもたないと、正しい判断ができないことがあります。子どもたちを見る視点も様々な角度から見ることで、子どもたちのよりよい成長を促す言葉かけや指導ができるのではないかなあと思っています。



見方を変えると形が変わります。決めつけた見方では全体像が分かりません。

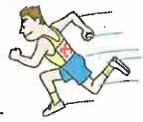
小体連

去る１０月２９日、６年生が小体連に出場しました。走ったり、跳んだり、投げたりする競技を通して、諫早市内の他の６年生と交流を深めました。

競争をするわけですから、勝敗がつきます。悔しい思いをした子もいたと思います。しかし、陸上競技は他と競うばかりでなく、自分と競うことができる競技でもあります。このことは小体連の壮行会でも６年生に話をしたところです。

今夏のパリオリンピック女子やり投げの金メダリストは、６５ｍ８０という他の追随を許さないビッグスローで見事頂点に輝きました。しかし、その選手は「金メダルはとっても嬉しい、でも自分の目標である７０ｍに到達できるようこれからも頑張りたい」とインタビューに答えられていました。

単に他との優劣を競うばかりではなく、自分への挑戦をする姿勢は結果として自分を多くの意味で成長させるのだろうと感じます。小栗小の６年生の多くが自分への挑戦に躍動していた姿が素晴らしいと感じました。



諫早市立小栗小学校　『学校だより』№14

令和６年10月22日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

かわいい子には

先日、国民的アニメキャラクターの声優さんが老衰のため９０歳でお亡くなりになりました。１９７９年から２００５年までそのキャラクターの声を努められましたので、この期間にこの方の独特の声質で育った方も多いのではと思います。

さて、この声優さんの独特の声質は作られたものではなく、地声に近いものだそうです。なので、思春期には、自分の声に自信がもてなくなったそうです。

しかし、お母様がそのような我が子の様子を見て、自分に自信がもてない子になってほしくないと、声を出す部活動を勧められたそうです。

そこで入部されたのが放送部だったそうです。初めは周囲から入部に反対の声があったそうですが次第に何も言われなくなったそうです。

さらに声優をされる前には俳優としての活動もされていたそうです。

もし、お母様が我が子のコンプレックスをかばうがあまりに「声を出す必要ない」とか我が子の声を不憫に思ってしまわれていたら、私たちはあの唯一無二の声をしたキャラクターに会えなかったかもしれません。

子どもたちは成長過程で悩んだり迷ったり、時に傷ついたりします。その時家族から「がんばれ！」と背中を押してもらうのが子どもとしては一番心強いのではと思いますがいかがでしょうか。

「乳児の時は肌を離さず、幼児の時は肌を離して手を離さず、少年の時は手を離して目を離さず、青年の時は目を離して心を離さず」と言われます。子どもたちが自信をもって自立していくための大人の在り方を示しているかと思います。

頌徳祭

小栗地区の子どもたちへの教育環境の充実を通して地域貢献をされた先人の遺徳を偲ぶ頌徳祭を10月18日に開きました。このような催しを行う学校に諫早市内で過去２校勤務したことがあります。そう考えると諫早の先達は教育の重要性をお考えになり、後世に続く人的財産こそ、ふるさとを発展させていくことにつながるのだという熱い思いをもたれていたのだろうと思います。

10数年前、離島勤務をしていた時、地域の方が小中学生に「いつか島を出る時が来るでしょう。島を離れても、その地からふるさとのためにできることをしてくれたら嬉しい。そのために今しっかり勉強してほしい」という趣旨のことを話されていました。

子どもたちが将来の基盤をどこに据えるかはわかりません。しかし、この地で学び、この地で育ったことが子どもたちの人生にいくらかでも寄与できるように、学校でも学業をはじめ諸活動に取り組んでいきたいと思います。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№13

令和６年10月８日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

令和６年度後半戦

「夏休みが終わったなあ」と思っていたら、一カ月が経ち、１０月も２週目です。令和６年度も後半に入っています。

年度当初は遠かったそれぞれの学年のゴールが少しずつ見えてくる時期でもあると思います。日々の学習、クラスの仲間と過ごす時間、学校・学年の行事やクラスでの取組などを通して充実した有意義な後半としてほしいと思います。

時間

私はこの夏、５７歳になりました。誕生から日数にして２０８０５日（うるう年をカウントしてません)、時間にして４９９３２０時間を費やしました。誕生日から一月半ほど経つので、もう少し時間を費やして今日に至っています。

この今日までの時間をどれだけ有効に使ったかと問われると、少々自信がありません。幼児期から小中高校、大学、社会に出てから教師となって３４年目、その時代時代に「こうしておけば…」と思うことも多々あります。しかし、それでもそれぞれの時代の毎日をそれなりに懸命に生きてきたからこその今日なのかなとも思います。

子どもたちもやがて成長し、年を重ねていきます。その時、自分の生きてきた時間を振り返った時、「こうしておけば…」「もっと…」ができるだけ少なくなるよう有意義な時間の積み重ねをしてほしいと思います。

気になって

家を出た後、「鍵を閉めたかな」「窓はどうだったけ」「電気消し忘れたかも」「見たい番組の予約録画してたかなあ」などなど。気になって、不安になってせっかく目的地の３分の１くらいまで来ていて自宅に引き返したこと、１度や２度ではありません。みなさんにはこんな経験ありませんか？そして、引き返してきて見てみると、鍵も窓も大丈夫、電気もしっかり消されていて、録画したものの結局いつまでも見ない…という結末を迎えるのも多々あります。つまり「取り越し苦労」です。

さて、この気になって不安になることは、日常生活で数多くあると思います。例えば

・自分が言ったこと、うまく伝わったかな　・何か自分のことを言われているみたい
・言いたいことはあるけど、正しいのかな　・話の輪に入りたいけど、今いいのかな
・声掛けしたのに、返事がなかったけど無視されているのかな
・何か見られているみたい　などなどです。

これらに共通しているのは「～かな」「～みたい」という不確定な推測です。推測すること自体、決して悪いことではないと思います。それは繊細さ、慎重さの表れともいえます。しかし、推測に振り回され、推測が推測を呼んで、推測の無限ループから抜け出せなくなると、身動きが取れなくなってしまいます。

冒頭の話に戻すと、気になった時「まぁいいか」と思うようにしています。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№12

令和６年９月24日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

折り返し間近

４月に始まった令和６年度も今月末を迎えると、残り半分です。その今月末までも約１週間です。

おそらく年度当初に自分の目標、クラスの目標を立てていると思います。進捗状況はどうでしょうか。

自分の成長を振り返るいい機会としてこの折り返し地点である９月末を生かしてほしいと思います。

宿泊学習・修学旅行

５年生は明日（9/25）から６年生は１０月１０日から共に１泊２日の行事を行います。どちらも泊を伴うことで、ワクワクだけでなくドキドキもあるのではないかと思います。

また、自分だけの楽しみを追求するのではなく、集団としての協調性を培ういい機会にもなります。

「楽しかった」「面白かった」にとどまらず、その先にある「学び」をそれぞれの子どもたちが得て帰ってきてほしいと思います。

私も夏休みに広島・宮島まで足を延ばしてきました。国内外を問わず、多くの観光客がいらっしゃっていました。少なくとも私が目にし、感じた中には観光地でのルール違反や眉をひそめる行動はありませんでした。不特定多数の人が集まる場所だからこそ、ルールを守って自分も他人も気持ちよく過ごせることの大切さ、ありがたさを実感して帰ってきました。

自分を見つめる

日本人メジャーリーガーがついに前人未到の大記録を樹立されました。素晴らしく、誇らしいことだと思います。また、チームの垣根を越えた賛辞が送られています。しかし、中には「あいつがいなかったら、自分が一番だったのに」「あいつのせいで、出番が減った」と思う選手がいたらどうでしょうか。

自分がどのように努力してきたかには目を向けず、自分が評価されないことや自分の置かれている状況を他人や他の要素のせいにして不平不満を声高に言い散らす人は、ますます評価を下げるのではないでしょうか。

私が好きなボクシングを題材にした漫画があります。気が弱く、臆病な主人公がチャンピオンになっていくストーリーです。その主人公の言葉に「僕は何も変わってない。好きなことができ、それに打ち込んでいたら、周りが変わっていた」という趣旨のものがあります。

子どもたちには周りを貶めて自分の心の安寧を図るようなことではなく、自分を見つめ、高めることで周りを変えていける人に育ってほしいし、育てたいと思いますが、いかがでしょうか。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№11

令和６年９月10日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

ＳＮＳ

某タレントさんが、自身が発信したＳＮＳで、他のタレントさんへの心無い言葉を発信し、あっという間にテレビ番組やＣＭで姿を見ることがなくなりました。

ご本人に悪意があったかどうかはわかりませんが、発信している言葉が非難されるに値するものであれば、「悪気はなかった」は通用しないと思います。

さて、子どもたちの間でも情報端末を使ったＳＮＳの世界が少なからず浸透しています。そこに発信している言葉は適切でしょうか。ＳＮＳは情報発信ツールとして便利なものです。しかし、文字情報は、なかなか真意が伝わりにくい一面も持っています。

発達段階、成長段階にある子どもたちが文字を巧みに使って、自分の意図を正しく伝える、発信者の意図を正しく汲み取るには、相応のスキルを要すると思います。

また、そのようなスキルを習得するための学習や、使うにふさわしくない言葉や言葉遣いを大人が繰り返し教えていく必要もあると思います。子どもたちが本来便利なツールで他人を傷つけたり、自分自身が不利益をこうむったりしないよう、情報端末との付き合い方、表現の仕方を大人の立場から教えていく必要があるのではないかと思います。

また、学校からは７月１に付けの安心メールでも「情報端末の取り扱いについて」という文書を配信しておりますので、今一度見ていただければとも思います。

自己アピール

日本人メジャーリーガーの勢いが止まりません。前人未踏の領域に日ごとに到達されています。誰にでも真似できないことで称賛を浴びています。

この「誰にでも真似できない」ことを違った形で表現してしまう人たちがいます。例えば、「スピードを上げて公道を自動車やバイクで走り抜けていく」「立ち入り禁止の場所に入る」「お店の店員さんに大声で文句を言う」などなど。

これらは厳密にいうと「誰も真似したくないこと」なのですが、行動している本人のは「自分は誰でもできないことをしている。すごいだろ！」という気持ちが働いているように思えます。

自己アピールは客観的に見た時、称賛されるか非難されるかをよく考えないといけないのかなと思います。また、「誰も真似したくないこと」でアピールしてしまうのは、こちらの方が容易にできてしまいやすいからかもしれません。

子どもたちには自己肯定感をもって自己アピールができるようになってほしいと思います。しかし、どういうアピールがいいのか、場に応じたアピールの仕方はどうかということについて考えられるよう成長してほしいと思います。

９月５日の授業参観や夏休み作品展の観覧、ありがとうございました。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№10

令和６年９月２日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

２学期始業式より

２学期が始まります。毎年思うことですが、日数としては最も長い２学期が感覚的には最も短く感じます。おそらく、多くの行事をはじめすべきことが目白押しだからかなと思います。

さて、２学期の始業式にあたり子どもたちには以下のことを話しました。

〇2 学期はたくさんの行事や学習があり、それらを通じて「経験値」を積むチャンスであること。中には初めてのこともあるが、「できない」「したことない」「わからない」では成長のチャンスを逃すこと

〇2 学期も「お・ぐ・り」を考えた生活をしてほしいこと

〇夏休みに印象深かったこととして、オリンピックで悔しい思いをした選手やチームがその悔しさを自分を成長させる力に変えようと前を向いている姿だったこと。このことからうまくいかないことや思い通りにならないことは成長のチャンスなのかもしれないこと

２学期の授業日数は始業式・終業式を含め 78 日です。限られた学校での時間を有意義に送らせたいし、送ってほしいと思います。

まだまだ暑い日が続きそうです

夏休み期間中も毎日熱中症警戒アラートが発令されていました。早朝や夕暮れは幾分過ごしやすさを感じても、日中の暑さは相変わらずです。学校でも外遊びを控えたり、時間を短縮したりして当分は熱中症予防に努めてまいります。各ご家庭におかれましても水分補給の準備や帰宅後や休日の外遊びには十分なご配慮をよろしくお願いします。

夏休み中の事故・事件について

幸いなことに、本校では事故・事件に関わる報告を受けることなく夏休みを終え安堵しているところですが、全国的には今年も水の事故、交通事故で子どもが命を落とす痛ましい報道がありました。そのような中で長崎県内の子どもに関わって未成年者誘拐の報道がありました。そのきっかけはＳＮＳの交流サイトを通じたものだったいうことです。

本校の子どもたちも自分用の携帯端末を所持する子がいます。お子様の携帯端末の使い方については、十分な管理監督の必要があると感じているところです。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№9

令和６年８月９日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

８月９日によせて

戦後 79 年が経ち、我が国が戦争をしていたことを歴史の教科書や映像でしか知らない人がほとんどとなっています。私もその一人です。ですから、当時のことについて実感を込めて子どもたちに伝えることは難しいと感じます。

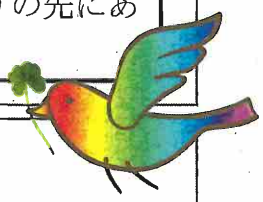
それでも、他国と争わず互いに理解し、平和な世界を築くことの重要性は伝えていかなければと思っています。そこで、今日の平和集会で子どもたちに話をしたことの概要をここに記し、ご家庭でも「今の自分にできる平和に関わること」をお子様と話していただければと思います。

【平和集会校長の話・概要】

長崎県内でも講演や語り部、高校生平和大使など、平和に関わる様々な活動をしている人たちがいます。しかし、小学生である皆さんには今の段階ではそのような活動は難しいこともあるでしょう。でも今の皆さんにもできる「平和を大切にする」について次のようなことを取り組んでください。

・人に対して意地悪やいじめをしないこと
・「ごめんなさい」「ありがとう」をきちんと言えること
・自分のしていることがみんなの迷惑になっていないか考え、自分をみつめること
・当番や係、委員会など自分のできること、自分の役割を通してみんなの役に立つこと

つまり、自分も自分以外の人も心地よく過ごせることを考えることが大切だということです。世界の平和という大きな平和は身近な平和の積み重ねやつながりの先にあると思います。



９月２日に向けて

夏休みは残り約 3 週間です。子どもたちにとっては「3 週間しか」「3 週間も」のどちらでしょうか。

さて、今のところ大きな事故や事件の連絡は入ってきていませんが、お子様は各ご家庭でどのように過ごされているでしょうか。夏休みを安全に楽しく過ごせているのは何よりですが、楽しさばかりが優先されて時間だけが過ぎてしまっていることはないでしょうか。

生活のリズムを整えることは大人でも難しい時があります。特に時間の制約や緩くなった状態から元に戻す時がそうではないでしょうか。これからお盆も迎えます。子どもたちにとって楽しい時間が今しばらく続くかもしれません。

自動車では急ブレーキや急発進はエンジンや車体に大きな負担をかけると聞きます。子どもたちも急な生活リズムの切り替えではなく、通常モードへの切替を徐々に行っていく時期なのでないのかなと思っています。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№8

令和６年７月16日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

夏休みに入ります

７月１９日の終業式をもって、１学期が終わります。学校での様子について、視点を「お・ぐ・り」で振り返ってみます。

「おおきな心で」
- １年生と遊んでくれる、世話をしてくれる高学年の姿をよく見ました。
- 元気に朝の挨拶をして登校できる子が多いです。
- 概ねきまりを守って生活できていますが、廊下歩行や交通マナーについてはもう少しです。
- 自分の言い分ばかりでなく、相手の言うことにも耳を傾けることができればさらにいい関係づくりができます。
- 場に応じた声の大きさを調節できると、さらにいい学校の雰囲気になります。

「ぐんぐん伸びる」
- 熱中症にも気を付けて、外で遊ぶ子が多く見られました。
- 地域の皆様のご協力のもと、学年に応じた地域での体験活動ができました。
- 行事では最後までやりぬく姿が多く見られました。

「りっぱな考えをもつ」
- 読書の時間になると、学校の中が静かな雰囲気になります。
- 学習の時間は多くの子が授業に向き合っています。
- タブレットを使うことが日常となっています。
- 宿題や自主学習には課題が残っているようです。

「お・ぐ・り」のそれぞれにできていることと、これから頑張らないといけないことがあります。ホームページに掲載している学校経営方針には「お・ぐ・り」の具体を示しています。参照いただければ幸いです。

夏休みを前に

毎年、夏休みに入る前に思うことがあります。それは「今年も日本のどこかで事件事故に巻き込まれる子どもがいるのだろう」ということです。とても悲しいことなのですが、子どもが関わる事件事故が全国的に０件だった年は、私の教員生活30数年の中ではありません。だからこそ、危機に近づかない、危機を察知することで、事件事故を未然に防ぐことが重要になってきます。

また、夏休みの生活に示されているきまりを守ることも肝心だと思います。子どもたちにとっては窮屈や煩わしいと感じることもあると思いますが、自分を守るためのきまりであることをご家庭でも確認ください。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№7

令和６年７月２日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

新紙幣

明日、７月３日は新紙幣が発行される日です。報道等でも発表されている通り各紙幣に描かれる肖像画が変更されます。

１万円札…渋沢栄一：明治から昭和初期にかけて活躍した実業家
５千円札…津田梅子：日本で最初の女子留学生の一人。津田塾大学の創設者
千円札…北里柴三郎：ペスト菌を発見した医学者

経済、教育、医学と分野は違えど、我が国の発展に寄与された人物です。今回のような機会に先達の功績や人となりを調べてみるのも面白いかなと思いました。また、過去の紙幣の肖像画となった人物を遡ってみるのもいろいろな発見があるかもしれません。

参考までに現行は福沢諭吉（１万円）、樋口一葉（５千円）、野口英世（千円）です。私が子どものころ（昭和時代）は、聖徳太子（１万円・５千円）、伊藤博文（千円）、岩倉具視（５百円）でした。当時は５百円の紙幣がありました。さらに遡ると、百円紙幣や１円紙幣もあったみたいです。紙幣を切り口にした我が国の歴史が垣間見えそうです。

また、近年はキャッシュレス決済が主流となり、お金そのものを持ち歩かない人も増えているようです。そういった意味では今回新紙幣に変わっても目にする機会があまりないかもしれません。子どもたちが社会の中心となる頃には、現金決済がほぼ行われていないかもしれません。しかし、金銭感覚を身につけて社会生活を送ることは現金でもキャッシュレスでも変わらないことだと思います。

２０００年に発行された二千円札。目にする機会がほとんどありません。でもれっきとした紙幣ですので使えます。沖縄県では比較的流通しているとも聞きます。

世の中の話題に目を向け、そこから発展的に思考を巡らせる楽しさや面白さを子どもたちには味わわせたい、味わってほしいと思います。

夏休みまで

７月になりました。今年の１学期始業式は７月１９日です。今日からの登校日数だけ数えると１３日を残すところとなりました。

まずは体も心も健康で元気に１学期を終えてくれることが何よりです。そのうえで、１学期の学習や生活をしっかりと振り返ってほしいと思います。

できたこと、もう少しだったこと、それらと向き合って、どのような夏休みにするかを計画してほしいと思います。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№6

令和６年６月 18 日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

教育週間

昨日（6/17）から「小栗っ子の心を見つめる教育週間」が始まっています。ご存知の方も多いと思いますが、長崎県では 2003 年、2004 年、2014 年に子どもに関わる重大事案が発生しています。子どもたちに「命を大切にすること」「豊かな心を育むこと」を目的としてこの教育週間は設けられています。この目的に近づくために学校での子どもたちの様子を見ていただく学校開放や道徳科の授業公開、保護者会、平和学習が設けられています。昨日は教育週間初日にあたり、次のような校長講話を行いました。

> 自分の命も他人の命も大切にすること。それは体や心を傷つける行為をしていないか自省してみることで確認すること。命は連綿と紡がれてきた営みであって、自分一人で今ここに存在しているのではないこと。世代を遡れは何十、何百という命があって自分につながっている。だから自分や他人の命を粗末にすることは、自分や他の人の家族を傷つけること、粗末にすること。
>
> 豊かな心は目には見えない。だからわからないということではないこと。豊かな心は、言動や振る舞いに表れるということ。自分の言葉遣いや態度について考える機会が教育週間中は普段より多いこと。その機会を生かして自分の心を成長させること。
>
> 「お・ぐ・り」について、「大きな心で」「ぐんぐんのびる」「りっぱな考えをもつ」ことに取り組めているか。面倒と思うこともあるかもしれないが、日々の積み重ねがたしかな成長につながること。

子どもたち（小学生）は、現在も成長過程にあり、様々な学びを得て社会に出て、自分も他人も居心地の良い世界をつくっていく一人となってほしいと思っています。

しかし、現実の報道等を鑑みると、利己的、自己中心的な行為や迷惑行為の数々、ネット社会特有の匿名性による誹謗中傷が決して少なくありません。

そのような行為に至るまでの経緯もあるかもしれませんが、**自分の行為に歯止めをかける自制心や、不適切な行為を恥じる気持ちを育てることの大切さ**も感じます。

時の流れに…

私には高３と高２の娘がいます。当然ですが小学校時代がありました。振り返ってみれば、あっという間に高校生になったような気もします。もうしばらくすると成人を迎えるのでしょう。子どもの成長は早いと思うとともに、過ぎた時間は戻らないとも感じます。かけがえのない時の大切さを感じます。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№5

令和６年６月４日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

運動会が終わりました

５月２６日に実施しました運動会には、多数の来校をいただき、ありがとうございました。目まぐるしく変わる天気予報にいささか翻弄されていましたが、予定通り行えたことは何よりでした。

この運動会を通して、「ねばり強くやりとげること」や「仲間と何かを創り上げること」や「自分の役割を全うすること」など、競技や演技の出来栄え以上のものを実感したり、「自分への自信を高め」たり、「今後の生活に生かし」たりすることで、子どもたちの成長に役立てられる運動会であってほしいと思います。

年度初めから続いてきた様々な行事（始業式、入学式、遠足、授業参観・・・）も、運動会でちょっと一区切りという感じです。そこで大事なことがあります。それは目標を見失わないということです。行事があると、それを明確な目標として目指しやすい状態に身を置くことができます。しかし、明確な目標が設けにくい状態になると、生活が乱れたり、何をしていいか迷走したりしてしまうことがあります。

ですが、本当に運動会が終わると一時的にでも目標が薄れるかというと、そうではありません。毎日の授業（学習）はそれ自体、子どもたちが習得すべき目標ですし、４月には自分自身の１学期の目標や１年間の目標を立てています。

ですから、立て続いていた行事がちょと一息の今だからこそ、自分の目標を改めて確認したり、向き合ったりすることには意味や意義があります。

梅雨入りの時期です

梅雨入りの報道はまだですが、天気がぐずつくことが多い時期です。学校内でも学校外でも天候に応じた生活が求められます。

- 室内で過ごすことを余儀なくされた時、屋外と同じように走り回り、大きなケガをしてしまう、させてしまう。
- 傘をさして遊んでいて、振り回した傘が他の人にあたってしまう。
- 傘で視界が悪くなり、車の動きを十分見ることができず、事故にあってしまう。
- 増水した水路に長靴や傘を入れて遊んでいて、水の勢いで流されてしまう。
- 水たまりで遊んでいて、自分や周りの人を泥はねで汚してしまう。

この時期に限らず、自分自身に悪意はなくても、結果的に良くない結果を招きかねないことがあります。その可能性が雨で高まるのもこの時期だと思います。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№4

令和６年５月21日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

講演会の記憶から

10年ほど前、京都での研修会へ出張に行った時、京都の老舗料亭のご主人の講演を聞く機会がありました。ずいぶんと時間は経っているものの、そこでお話されたことで今も記憶に残っていることを紹介します。

■新しくその料亭に入ることになった人たちへまず声をかけるのは、
「ここには就職したのではなく、修行にきたと思いなさい」だそうです。
・料理、特に老舗の料亭ともなると楽しいことばかりではないのでしょう、一人前の料理人になるには厳しいことを乗り越えないといけない場面もあるからこその言葉かなと思いました。

■最近（10年前時点です）の子たちができていないのは「あいさつ」と「返事」ということをとても感じます、という話をされました。
・お客さんを相手にする仕事は、言い換えれば人を相手にする仕事です。店の誰かの「あいさつ」や「返事」がおろそかになると、店そのものの評判にもつながるのだろうと感じました。

さて、この２点は、講演の中でも私が特に強く記憶していることです。それは、10年経っても通じるところがあるからです。

子どもたちは、いずれ社会に出る時期を迎えます。その時、多少の困難に対しては自分で乗り越える力が必要でしょうし、全く人と関わらずに過ごすのも非現実的な一面があります。「ねばり強くやり遂げること」や「あいさつや返事を通した基礎的なコミュニケーションを身に付けること」を子どもたち個々の成長過程をふまえながらも、少しずつでも伸ばしていくのは教育の不易の一面だと感じています。

登校の様子から

本校は、住宅地が近隣に多く、朝の通勤通学時、夕方の帰宅時には歩行者、自動車、バイク、自転車と様々な交通手段が入り混じります。子どもたちは安全に気を付けながら登下校しているところです。

しかし、過去の報道等では、登下校中の子どもが車両側の過失によって交通事故に巻き込まれたものが少なくありません。自分の命を守る意味でも、わき道から本線に合流する車両や、スピードを出して走行している車両がいないか十分注意を払って、より一層安全な登下校を心がけてほしいと思います。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№3

令和６年５月７日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

大型連休が終わりました

４月末からの大型連休も終わり、学校はこれから運動会へ向けての練習が本格的に始まります。新学期早々から季節外れの暖かさ（暑さ）でしたが、ここ数年は、春の運動会時期でも熱中症への備えが必要になってきています。

子どもたちが運動会当時に最高のパフォーマンスを発揮できるのは喜ばしいことですが、体調を崩しては本末転倒です。体調管理をしながら無理なく本番を迎えてほしいと思いますし、迎えさせたいと思います。

新学年から１か月が経ち、大型連休を終えた頃に懸念されるのは、「生活リズム」です。いくばくかの緊張もほぐれ、大型連休で時間的にいささか自由に過ごす機会に体が慣れ切ってしまうと、本来の状態に戻すのは大人でもきついと思います。

特に睡眠が十分とれていない、または睡眠をとる時間帯が学校課業日とずれると、様々な活動をする上で重要な働きをする「脳」が十分に活動しづらい、または活動する時間帯がずれることになりかねます。以前から「早ね・早起き・朝ごはん」といわれていますが、子どもたちの生活リズムをつくるうえでの大切な要素だと改めて思います。

子どもたちと出会って約一か月が経ちました。校内や朝の登校時に元気よく挨拶してくれる子も多くいます。大人でも慣れないうちは、気恥ずかしさもあって挨拶をかわすのがなかなか難しいこともあります。しかし、気持ちの良い挨拶を交わすことで人間関係の第一歩を踏み出せることもあると思います。本校の子どもたちの中には、その場で立ち止まり元気よく挨拶できる子もいます。いい習慣が育っている子がいるなあと感じます。

授業参観・保護者会・育友会総会ありがとうございました

４月２６日（金）の授業参観・保護者会には、お忙しい中の来校ありがとうございました。授業参観では学年初めのお子様の様子を、保護者会では担任との顔合わせをしていただけたのではないかと思います。今回、来校が叶わなかった皆様におかれましても個別の面談や次回の授業参観の折に担任との話やお子様の様子を見ていただければと思います。

また、育友会総会においても多くの出席をいただきありがとうございました。効率的なスタイルでの開催がされていることに、本校の先進性が表れていると感じました。

諫早市立小栗小学校　『学校だより』№2

令和６年４月23日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

年度初めの行事や取組がたくさんありました

４月１０日（水）、令和６年度入学式を挙行しました。６７名の新１年生をむかえ、全校児童４０６人となりました。これからの学校生活を送るにあたって１年生に「優しい子」「たくましい子」「かしこい子」になれるよう頑張ってほしいことを話しました。
また、代表児童からは歓迎の言葉が送られました。
しばらくはドキドキの学校生活だと思いますが、少しずつ慣れていってほしいと思います。

４月１６日（木）、火事を想定した避難訓練をしました。児童・職員あわせて約４００人が３分以内に避難を完了できました。自分の命も他の人の命も守るため、自分勝手な行動をしないことが大切だという話をしました。

４月１７日（水）、１年生の給食が始まりました。給食は食育の一環であるとともに、当番活動を通して自分の役割への責任やみんなと協力することを学ぶ機会となります。

４月１８日（木）、５・６年生対象の長崎県学力調査（国語・算数、６年生は理科のみ実施）、６年生対象の全国学力学習状況調査（国語・算数）がありました。これらの調査は、子どもたちがどのような学習に対して得手不得手があるのかを見取り、よりよい学びを提供するための一助とするものです。また、高学年で実施されますが、そこに至るまでにどのような力を伸ばしていくことが必要なのかを見取ります。

４月１９日（金）、１年生を迎える歓迎集会が開かれました。担当した子どもたちを中心に、温かい雰囲気で会が進みました。その後、県立総合運動公園への遠足でした。天候もよく楽しい１日を過ごせたようでした。

慣れ始め

運転免許を取得したばかりのころは、運転することが楽しくあったとともに緊張感をもってハンドルを握っていたように記憶しています。しかし、徐々に運転に慣れるにしたがい、いささか横着な運転になってしまいがちだったことも覚えています。そのようなときに限ってヒヤリとすることも多かったと思います。
新学期が始まって２週間、新しい環境に慣れてきたときだからこそ自分を客観視することが必要かなと思っているところです。

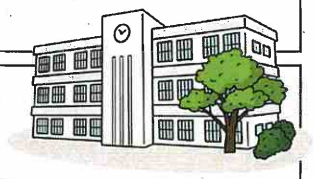
諫早市立小栗小学校　『学校だより』№1

令和６年４月９日
文責　校長　橋口　亨

目指す児童像　『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

ごあいさつ

このたびの異動により本野小学校から４月１日付で小栗小学校に着任しました校長の橋口亨（はしぐち　とおる）と申します。校長歴４年目を迎えます。学校での学びが日常に、ひいては子どもたちの未来につながっていけるよう努めて参ります。本校教育に係るご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和６年度のスタートにあたって

令和６年度が始まり、早一週間です。学校では１学期の始業式を終え、学校としての１年間をスタートさせました。

さて、今年度の学校の方向性を以下のとおりお知らせいたします。詳しい学校経営方針は、本校ホームページに掲載していますので、見ていただければ幸いです。

■学校教育目標

「自他を大切にし、耐性と学力を身に付け、みんなと協働できる子どもの育成」

・子どもたちが将来にわたって必要な社会性と学力の充実・向上に努めます。

・目指す児童像として「自分で考え、より良い判断ができる」を掲げ、変化の激しい社会を生き抜く力の具現化に学校生活全体を通して努めます。

■時代の流れに沿った学校の働き方改革

・各種取組を精査し、効率的な業務推進を行い、子どもたちと向き合う時間を増やします。

・今後、「学校だより」は、ホームページ掲載とし、原則として紙での配付は行いません。ご了承ください。

ホームページ二次元コード⇒

始業式より

始業式に子どもたちに次のような話をしました。

○　学校は大人になるための力をつける練習の場であること

○　練習をする中ではうまくいかなかったり、失敗したりすることもあること

○　「おおきなこころで」「ぐんぐんのびる」「りっぱなかんがえをもつ」を目標に、それぞれの具体的な取組を考えていくことが大切だということ

○　１年間や１学期の目標をしっかり立て、年度末に自分の成長を実感できること